

第41回

土光杯

全日本青年弁論大会

土光杯全日本青年弁論大会

行政改革に大きな足跡を残した故土光敏夫臨時行政調査会長の「行革の実行には若い力が必要」との呼びかけに応じてフジサンケイグループが昭和60年に創設。テーマはその後、拡大され、日本の将来を担う若者の主張の場として毎年開催される。



記念撮影に応じる弁士と審査委員ら

講評

審査委員長



拓殖大学顧問 渡辺利夫氏

経験を文章化で「経験知」に

大変優れたスピーチを聞かせていた
だいて、私も幸せな一日でした。

3つほどコメントします。一番大切なのは、10分足らずのスピーチですが、体系的な論理性が必要です。論理が首尾一貫していることが、短いスピーチの一番大事な点です。

2番目ですが、さまざまなバックグラウンドの聴衆の前でスピーチするのは、この聴衆を少しでも引きつけるような切り口、キーワードが大切です。今回のスピーチの中でも3、4つの斬新な切り口がありました。

3つ目は、経験はこれを文章化することによって初めて、「経験知」になるということです。皆さんは私に比べればはるかに若い世代の人たちですが、それでもいろいろな経験を積んでいます。今日の話聞いていただいても、皆さんのさまざまなバックグラウンドがわかりました。こうした経験を文章化しないと、いつの間にか人生のささやかな経験として流れ去ってしまいます。

経験が「経験知」になって、これが一つのブロックになります。別の経験を文章化すると、また別のブロックとなる。ブロックが積み上がり大きなかたまりとなります。これが諸君の人生というところになるのではないのでしょうか。

どうにか、文章を書くことを癖にしてください。清聴ありがとうございました。

テーマ「人口減少社会にどう立ち向かうか」

第41回土光杯全日本青年弁論大会（フジサンケイグループ主催、カートエンターテイメント特別協賛、岡山商工会議所協力）が11日朝かれ、若者たちが熱弁を振った。大会のテーマは「人口減少社会にどう立ち向かうか」。論文審査を勝ち抜いた10人のうち、最優秀賞の土光杯、優秀賞の産経新聞社杯、フジテレビ杯、ニッポン放送杯、故土光敏夫氏の出身地、岡山県にちなんで特別賞岡山賞に輝いた5人の要旨を紹介する。大会の様子は、産経ニュースの公式YouTubeチャンネルで配信されている。

